



週報

2015~2016 年度 RI 会長 K.R. ラビンドラン
RI のテーマ 『世界へのプレゼントになろう』
第 2570 地区 ガバナー 高柳 育行

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 江原伸夫 会長エレクト 佐藤圭司 副会長 浜野貴子 幹事 小島美恵子

〔第 3 グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1052 回(8 月 25 日)例会の記録

点 鐘 江原伸夫会長
合 唱 四つのテスト
第 2 副 S A A 野口君、沼崎君
卓話講師 航空自衛隊中部航空警戒管制団司令
兼入間基地司令 空将補 山本裕一様

ひしと伝わってくるような内容で、ほぼ同年代の私には一々腑に落ちるものであった。そこで本日は同書を皆様に御紹介して是非読んで頂きたいと思う。

「先の戦争にどんな評価を下すか」

産経新聞 平成 27 年 8 月 13 日

◀ 「日本よりいい国があるか」 ▶

ダンテの『神曲』が専門の私だが、個人と国家の体験を織り交ぜて『日本人に生まれて、まあよかった』(新潮新書)を出したら意外に読まれた。戦前戦中戦後を知る私が、本音を語ったのがよかったらしい。米国の旧知が「Born in Japan, it's nice! あれは本当だ。今の日本くらいいい国がほかにあるものか。謝罪などせず、きちんと自己評価しろ」という。それでやや先だが西暦 2045 年、日本人が 100 年前の戦争に対しどんな歴史評価を下すべきか、今から巨視的に考えておく。

まず微視的に私のことを述べると、中国でも何回も教えて親しい人もいる私だが、今の大陸の体制は御免蒙(こうむ)る。私は自由を尊ぶ親米派だ。戦争中も熱心に英語を勉強した。父は洋行から帰るや昭和 15 年、小学 3 年の私に米国婦人に英語を習わせた。その父が米国ロングビーチの油田を写した写真の裏に「全ク林ノ如クヤグラヲ立チ居リ壯観ヲ極ム。吾等石炭ヨリ液化セント努力スルモ此ヤグラ一基カニ基ノ能力ヨリナシ。此石油産出状況ヲ見テ米ト戦ハン等、疾(はや)ル人ノ夢タルノミ、在外武官ハ何ヲ視察シ調査、研究、報告シタルヤ」と書いてあった。「石炭から液化できなくは

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
37名	27名	71.42%	88.24%

パスト会長の時間

「平川祐弘の戦後 70 年に思う」について

守屋昭夫パスト会長

月に 1~2 回、私は本屋に出かける。私の趣味である読書の材料を探すためだ。

今月の初め、2 冊購入した。1 つは桜井よし子氏著「日本の敵」。2 つ目は平川祐弘氏の「日本の正論」



である。本日の卓話にも思っとななめ読みしてみたが、前者は内容が硬く、きびしく、桜井さんの闘う気迫がこの本のすみずみまでみなぎっていて、その勢いに圧倒された。卓話どころではなく、今は先に持ち越すしかないと考えた。後者は平川氏のお人柄がしみじみとこちらに伝わってくるような内容で、氏の日本を愛する気持ちがひし

ないがコストが高過ぎる」といった。わが家は理系の合理主義で精神主義に批判的である。8月15日、玉音放送に引き続き「万斛(ばんこく)ノ涙ヲ呑ミ」と内閣告諭が読み上げられるや理科少年の私は「180万リットルも飲めるものか」と悪態をついた。そんな家庭での歴史評価はどうか。「五・一五や二・二六で重臣を殺した軍部が悪い」と父。「大欲ハ無欲ニ似タリ。満洲国で止めておけばよかった」と兄。「大きな声で言えないけれど、こうして空襲がなくて夜眠れるのは有難いね」と母。それが敗戦1週間後の会話だった。黙っていた中学2年の私も同感した。

《原爆投下で立場が逆転した》

戦災を免れたわが家は接収と決まる。すると父はおなかの大きな姉を嫁ぎ先から呼び戻し「妊婦がいる」と占領軍の接収を延期させた。しかし甥(おい)が生まれ姉が秋田へ戻ると一家は立ち退かざるを得ない。和風の家ペンキを塗る足場が組まれる。しかし「相手が米国だからお産がすむまで待ってくれたのだ。これがソ連ならそうはいかん」と父は言った。

私の歴史評価は当時も今も同じだ。軍部が政府に従わず、解決の目途も立たぬまま中国で戦線を拡大した責任は大きい、また軍部に追随した新聞も悪い。私は日米同盟の支持者だから左翼に悪用されても困ると大声では言わなかったが、先の大戦で軍国日本が悪玉だったとしても、1945年8月6日にその立場は逆転した—そう判定している。降伏交渉中の日本に原爆を投下した米国は極悪非道の悪玉で、米国の原罪は未永く記録されるだろう—ダンテがいま『神曲』を書くならトルーマン大統領は、死ぬ前に原爆投下を命じた前非を悔いていないかぎり、地獄で焼かれているはずだ。その罪を帳消しにするために「慰安婦20万」とか日本側の大虐殺とか誇大に主張する輩(やから)もいるらしいが、よし見ている、そうした良心面した連中の赤い舌は必ずや『神曲』未来篇で抜いてやる、と私は考えている。

そこでヒトラーは地獄のガス室に詰め込まれ、スターリンはさらに下層で氷漬けなのは、それだけ殺した人数が多いからだ。だがさらに下に一人黄色い顔をした大物の主席が「こちらの方がもっ

と多いぞ」と居丈高である。それが誰か皆わかるが、恐ろしくて名前を口にすることもできない。

《大失策だったドイツとの同盟》

ここで日本国家の行動を反省したい。連合国は軍国日本についてまるで知らなかった。日本が極東のドイツに擬せられたのは、日本がナチス・ドイツと同盟したからだ。先の大戦でわが国の大失策は、ユダヤ人全滅を図った国と同盟を結んだことだ。しかし日本はドイツがそんな是非を弁(わきま)えぬ人種政策を実行するとは、同盟を結んだ近衛文麿も松岡洋右も知らなかった。ドイツで日夜精勤していた父もわからなかった。それはいま大陸に勤務する日本人技術者や商社マンがチベット人弾圧の詳細を知らないのと同じだろう。そんな平川家は親独派で、一族は父も兄も義兄も私も旧制高等学校は理科でドイツ語を学んだ。和独辞典を擦り切れるほど使ったのは父だ。戦争末期にドイツから潜水艦で運ばれたというロケットの設計図の青写真が父のもとへ届けられた。敗戦後、屋根裏に隠したが後で焼却した。

朝鮮についてはどうか。「本国にもない大工場を植民地に建設した国が日本の他にあるか。あるなら言うてみい」と父は怒って言った。鄭大均編『日韓併合期ベストエッセイ集』(ちくま文庫)はいい本で、そこに父も建設に参画したらしい硫安の工場の話が出ている。

以上の時事評論の説明・解説については省略する。会員には平川氏の「日本の正論」を贈呈する。

幹事報告

小島幹事

1. 第一回地区青少年部門セミナー開催について
9月12日(土) 点鐘 13:00 東松山紫雲閣
2. 第一回財団セミナー開催について
9月19日(土) 13:30 国立女性教育会館
3. 第一回公共イメージセミナーについて
9月27日(日) 点鐘 13:00 東松山紫雲閣
4. 地区大会チャリティーゴルフコンペ開催について
10月22日(木) 登録受付 7:00 より
場所 こだまゴルフクラブ
5. 公益法人米山梅吉記念館より 賛助会員ご入会について

- 6. 例会臨時変更 入間 RC 所沢 RC 所沢中央 RC
- 7. 受贈会報 飯能 RC 所沢西 RC 入間南 RC
- 8. 回覧物 学友会だより ハイライトよねやま 185
米山梅吉記念館 官報(秋号 Vol126)

委員会報告

柴田 R 財団委員長

皆様こんにちは。

経過報告をさせていただきます、昨年稲見年度から引き続いております狭山市内の県立高校に対するクラブ活動に用具を支援するという事をやってまいりましたが、この度最後の狭山経済高校に対し9月1日に贈呈式を行う事になりました。青少年育成に対する支援はここで終わるということになります。

また、江原年度は狭山リトルシニアへ軟式野球ボールを寄贈する事になっており、次週外来卓話で須田昌司事務局長にお出で頂き話しをして頂くことになっております。また、R財団地区補助金の10万円の支援で出来るように体制を整えております事をご報告させていただきます。

「外来卓話」・・・・・・・・・・

航空自衛隊中部航空警戒管制団司令
兼入間基地司令

空将捕 山本 裕一 様



・・・紹介・・・

昭和35年1月6日生まれ、出身校は防衛大学26期、特技は会計だそうです。

経歴を申し上げますと、昭和57年9月に第7航空団に入隊なさいまして、平成2年幹部候補生学校に入校されております。その後東京、北海道、入間、市ヶ谷等を回られまして、平成26年8月に現職につかれております。

出身地は石川県の能美市、趣味はゴルフ、カラオケ、温泉、ジョギングとのことです。

宜しくお願い致します。

皆さんこんにちは。

航空自衛隊入間基地司令の山本でございます。中部航空警戒管制団とは非常に言いにくい部隊名でございますが、その部隊長と基地司令という職務を兼務しております。

本日は狭山中央ロータリーの皆さまにこういったお話をする機会を頂きまして、大変光栄に思っております。また平素から当基地の運営に関しまして、様々な面からご支援・ご理解を頂きまして、厚く御礼を申し上げます。

我々自衛隊の使命と致しましての飽くなき精強化の大きな要素の一つであります、安全活動ということにつきましてのアプローチや、具体的な方策についてお話をしたいと思っております。

突き詰めていきますと、非常に単純なポイントに集約されていまして、「なんだ。そんなことか」といった感じがするかもしれません。しかし我々の日々の現場作業の実態から導きだしたものでありまして、その単純なことが簡単にできないということが現実であるということ、今日はご理解頂きたいと思っております。

まずは精強化の追求の意義から入りまして、そして事故原因の根本的な性格を分析しますとともに、日々の業務や訓練を通じまして、人的フェイルセーフ、いわゆる人による欠陥を補修すること、これをいかに重層化、積み重ねていくか、このための方策についてお話をしたいと思っております。

「飽くなき精強化の追求」、キーは人と示しましたが、航空自衛隊の最大であります当入間基地を管轄する私と致しましては、毎日轟音と共に大空

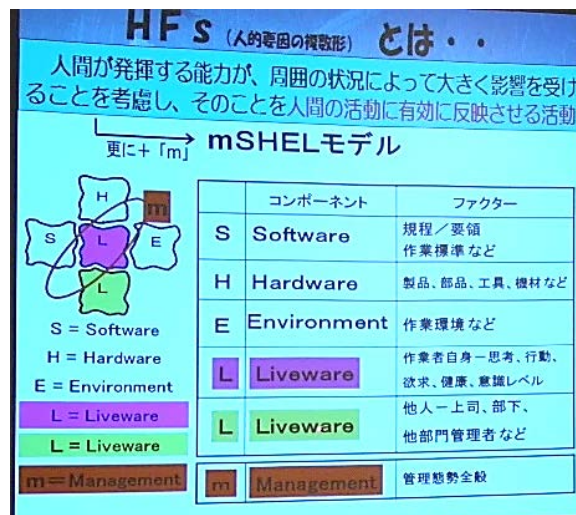
を劈いていく飛行機、この航空機を見送るときに、しっかり訓練をしてこい、そして必ず無事に帰ってこいと念願をしながら、思わず胸の中で手を合わせる毎日であります。「飽くなき精強化」を追求する実戦部隊と致しましては、限界への挑戦ということと、安全確保という相反する要素の両立、これが永遠の課題なのですが、追求していかなければなりません。安全のためなら飛行しなければ良いと言ってしまえばおしまいでありまして、これでは本末転倒であります。

これまで世界古今東西、人は様々な事故を経験し、原因を究明、そこで学習をして、再発防止ということに尽力してまいりました。事故の要因と致しましては、大きく区分致しましてハードウェアと、ソフトウェアという規定や規則、それと環境というものが挙げられまして、これらの要因の無数の組み合わせによると言われておりますが、ただ言えますことは、全て要因は人を中心としているということ、また最終的には人に集約されていくということです。ヒューマンエラーという言葉がありますが、人のミス、これに焦点を当てていきたいと思えます。

これまでの航空機に関する事故原因の変遷の傾向を示したものであります。今から約45年前、だいたい事故の8割方が物による、いわゆる機械が壊れるといったことが原因でした。それが今現在反転致しまして、今や8割が人による原因となっております。人の失敗というものが増えているのですが、客観的に見ますと、いわゆる機材の信頼性が非常に上がったということ、色々な機械、システムが精巧になりまして、その不具合や不備による事故が減っていった、そこで出てくるのが人間のエラーということです。よってこれからの航空事故防止対策としては、人による欠陥、エラーというものを如何になくしていくかということに注目されることになってきております。

こちらの表は国交省が定義しております、ヒューマンファクターズとあって、事故や不具合の発生の人的要因に関する要素を示したものであります。全体の頭文字をとりまして、SHELLモデルというわけですが、人間が発揮する能力が周囲の状況によって大きく影響を受けるということをよく考慮

致しまして、そのことを人間の活動に有効に反映させていくものというものであります。一つの分析手法であります、最近ではこのシェル要素にさらに、マネジメント、管理体制を加えまして、MSHELLモデルということで、人間の人的な問題の要因を分析するという手法がとられています。



各要素を説明致しますと、中心が紫、Livewareということ、実際に作業をしている人、その自身を言います。その人を中心に作業の規定や容量、作業標準であるソフトウェア (Software)、製品や部品、工具、機械、機材のハードウェア (Hardware)、照明や温度等の作業環境 (Environment)、そしてもう一つの L が上司や部下等、作業者に関わる人間関係としての関係者 (Liveware)、そして最後に管理体制 (Management) です。これらの要素は事故の未然防止のためのチェックリストとして使用されますと共に、不幸にして事故が発生した場合、今後の教訓と再発防止対策を導き出す視点として使われます。それぞれのファクターからどのような問題があったか、もしくはどのような問題が起ころうとしているか、これを一つ一つ分析していき、事前に排除しましょうということ、とりわけ最近では M : Management、この管理体制、具体的に言いますと、上司による監督指導、作業員のしつけ、心構え、マインド、こういったことの重要性が増してきております。このヒューマンファクターズという手法の考え方と、これまでの事故防止の考え方の比較が、こちらになります。

そもそも論と致しまして、人間のエラー、失敗というものは、従来までは絶対にあってはならない

従来の考え方との比較

項目	従来の考え方	HFsでの考え方
人間のエラーは・・・	絶対にあってはならない	ゼロにはならない
エラーの見方	人の不注意から起こる	エラーは誘発される
エラーに対する態度	恥、罰、罪、隠蔽	誰にも起こる、情報共有
エラーの調査	内々に、上司が	オープンに、第三者が
原因の特定	誰が、当事者は	誘引した要因は
懲罰行為	エラーに見合った懲罰	犯罪を除きなし
再発予防	人の緊張を喚起する	環境を改善する

という絶無説、それを理想像としておりましたが、やはり現実論として、世の中にエラーをしない人はいません。そこでヒューマンファクターズという手法は、エラーは0にならないという客観的な考え方が起用されております。ただしこれはエラーを0にできないという目標を諦めたものではなく、現実としてやはり起こるのだらうというものであります。そしてエラーの見方につきましては、エラーが発生する原因の多くは人の不注意とされております。これはいくら注意していてもやはり失敗、エラーは起こるのだということ、すなわちエラーとは周囲の環境によって誘発されるのだという考え方に変わってきております。そして失敗に対する態度、これは人とは恥、罰、罪を避けるために、エラーを隠そうと致します。やはりプライドがあるのです。

そこでエラーは誰でも起こしてしまうということに致しまして、再発防止のためには逆に隠ぺいをせず、積極的に情報を公開して共有しましょうという方向に変わってきております。その流れと致しまして、エラーの調査とは失敗の隠ぺいをしながら内々に調査を致しましても、その部隊や組織は良いのですが、他の部署や組織には失敗の状況が全く伝わらないということで、また同じような失敗が発生してしまうということ、そしてこのエラー当事者の人事権を持つ直属の上司等が調査に入りますと、本当のことが話せなくなるということで、エラーの調査は全く関係のない第三者が行うべきということになってきております。

我々航空自衛隊も色々な飛行機を飛ばしておりますので、危険な行為がありますと本当に迅速に全国の部隊にその状況が知れ渡るようなシステムを持っております。そして原因の特定とは、重要な

のは誰がやったのかではなく、エラーの要因を特定することが大切、要は人のせいにしても始まらないということです。何が原因であったかということにまず注目しましょうということ、そして懲罰行為、どうしても問題を起こすと責任を問われることとなりますが、懲罰とは犯罪の再発防止手段でありまして、エラーに懲罰を足しますと、なおさら人はエラーというものを隠そうとすることになりますので、そういったことはしないという方向になっております。そして再発予防におきましては、人の緊張を回避するだけでは防ぎきれないということで、人と関連する周囲の環境を改善していくこと、これが大切だという考え方に変わってきております。

そこで人による失敗を大きく分類致しますと、4つに区分されます。一つ目がスリップ、これは専門用語であります、いわゆるうっかり操作の間違い、手順を飛ばしてしまう等ということです。二つ目がラプス、やるべきことを忘れてしまったり、記憶の違いによって起こるエラーです。三つ目がミステイク、これは英語の通り判断の誤りです。自分では正しいと思っていても、実際には間違っているとといったエラーになります。四つ目がバイオレーション、これが最も厄介なものでして、やってやろうという意思や故意、これまでは無いにしましても、まあいいか、仕方ないと思うことが、最も罪が深く、問題だと考えられています。しかしながら人間には流される傾向があるということ、我々はよく認識しておかねばならないのです。

これまでの多くの事故事例と自らの経験から、安全にかかわる人間の本性を捉える必要があるとチャートを作ったわけですが、ここは非常に残念なのですが、性悪説的にならざるを得ません。人は基本的には弱い生き物であるということで、その基本概念のもとでの安全にかかわる人間の本性とは5つのポイントに集約されております。【1:のど元すぎれば暑さ忘れる】、嫌なことは忘れる、忘れようとするということで、心理学者によりますと、そもそも人とは幸せに生きようとする本能があるということで、嫌なこと、辛いことというのは、本当に自ら意識をしていないと無意識のうちに忘れようという操作が働くそうです。よって犯罪者

によくあるのですが、都合の悪いことは本当に記憶が消えていくということで、これは恐ろしい話です。そのため、なおさら意識をして覚えておかなければいけないということです。

【2:自分だけはそんな目に合わない】、よくあると思いますが、当事者は意識を持ちにくい、過信に陥るということです。

【3:面倒だ、一々やってられない】という怠惰、省略思考です。

【4:相手も気づいてくれるだろう】という都合の良い判断、解釈です。これがよくある交通事故です。

【5:もうどうにも止まらない】、我を忘れる、衝動に走るということです。

誰しもが一度は持った思い、感情であると思うのですが、人には宜しくないとわかっていながらも、このように判断してしまうという傾向があることを、我々はよく認識しておかなければならないということです。そしてこの本性を誘い出す誘因というものは、疲労と酒と暑さです。

とりわけ身近な話を致しまして「お酒」、人は一晩、ある一定量の酒を飲みますと、約60万~80万の脳細胞が死滅すると言われております。人間の脳細胞とは1,400億個ありますので、60万や80万は別に良いのではないかと思うのですが、これは塵も積もれば山となるという話でありまして、そのうち本当にどんどんと脳細胞は死んでいきます。そして嫌なことに、少年以上になっていきますと、当然脳細胞は再生されるのですが、生きの良い細胞は再生されないそうです。元通りになると思っただけで大間違いで、どんどん死んでいくということです。

事故原因の単純性ということになります。これもまたわかっているようでなかなか気が付きません。事故とは大規模のものから小規模のもの、微小なものまであります。最近火薬庫の火災や爆発といった事故が多くあります。その影響度はまちまちですが、その原因を突き詰めていきますと、一つの共通項に到着致します。得てしてその原因というのは単純、シンプルであるということです。

この特性は、人によるエラーの場合は一層明確になります。

全体的には、さまざまな要因が複雑に絡み合っ

た物事が発生しているのですが、我々が見落としてはならないのがまずその発端です。スタートには何があったのか、何が問題だったのか、ここに注目すべきでありまして、その発端の要因こそ、単純性という性格を指しているということでもあります。従って安全確保の第1ステージとは、我々人間の本性からしまして陥りやすい、単純なミスがどのように潜在しているか、これを見ぬくことが極めて重要だと思います。

我々の世界、戦闘機による空中訓練を行っておりますが、そのほんの一コマであります。秒単位の緊迫感が伝わってきます実態をご紹介します。

・・・ビデオ・・・

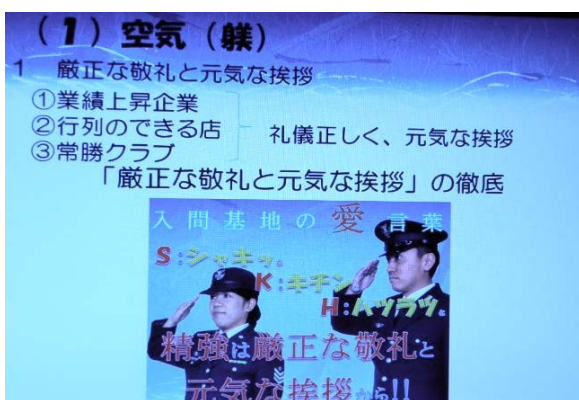
こういった伸るか反るかの戦闘機によります空中訓練を、毎日のように、だいたいパイロットは2~3回繰り返しております。空中におけます人の判断力とは大幅に低下する傾向にあるなかで、コンマ何秒の判断を要するがゆえに、こういった訓練に出る前には極めて緻密な事前ブリーフィングを行います。それは勿論なのですが、事務所の清掃、整理整頓、飛行機の外装点検、整備員や管制塔等とのコーディネーション、あらゆる点から基本動作と安全確認を体の髓にまで染み込ませておりまして、これによってこのような状態でも条件反射的に最低限の安全策がとれるといった訓練をしているところでもあります。

今のようなイメージで行っているがゆえに色々な人的過誤が起こる可能性があります。そこでフェイルセーフ、欠陥補修を如何にして重層化していくかということでもあります。想定外のことが発生しても、フェイルセーフ、ストッパーが効くということでありまして、今の近代的な航空機は本当にこれがよく働くようになっております。例えば一つのエンジンが止まっても、もう一つのエンジンが動いていれば大丈夫であったり、油圧であったり、燃料、電気系統、みんな最後の最後まで生き残るように、ここがダメでもこっちから、こっちからということで、幾層にも補充のバックアップの機能が働くようにしてあります。これはスポーツで言いますと、サッカーやバスケットボール

の抜かれても抜かれてもディフェンスが出てきて、最後はゴールを守るといったイメージです。これが飛行機に適用されています。それを何としても人の世界にも積み上げていくことが、人的フェイルセーフの重層化だと考えているところであります。全てを網羅している訳ではありませんが、代表的な方策、具体的なものをこれからご紹介していきたいと思えます。

一つ目は、当たり前のお話なのですが、風紀、しつけです。これが全般論として極めて重要なことであり、初歩中の初歩であります。礼儀正しく元気な挨拶が交わせる組織に胡散臭い組織はないということが、実績からしても、常識的証明事項であります。業績上昇の企業や行列ができる飲食店、また各学校の非常に強いクラブチーム、これらは全てここが徹底されております。特に今流行っている美味しいお店、極めて店員の礼儀が正しいです。

私は中学、高校とバスケットボールをしておりました。色々な試合に行くのですが、強豪チームの胸を借りようといった場合、その相手校の体育館の玄関に入った瞬間に、向こうチームがバツと並び、極めて元気のある挨拶を交わされまして、その挨拶を交わされた瞬間にもう負けたと思ったことを、今でも忘れられないほど印象に残っております。強い組織、しっかりした組織の基礎はこれだと、強烈な思いを持ったものであります。



そこで我が入間基地も、厳正な敬礼と元気な挨拶、当たり前なのですが、これを基地の風紀を形成する源にしようということで、徹底しているところであります。隊員相互のコミュニケーションのためにも、声をだして挨拶しようということで、部隊に風紀の張りをもたらすということにしております。

二つ目は、適切な管理要領、この中には具体的な構成が色々ありまして、まず全体の流れと致しまして、リズムと刺激ということでありまして。仕事やスポーツを始め、家庭生活におきましても、リズムよく回っている時には、倦怠感や疲労感は感じにくいということで、辛いことも前向きに取り組むことができます。よって程よい感覚で刺激、すなわち平常のルーティーンではない行事や休息、こうしたものが良いタイミングで入ってきますと、集中力がはっとして戻る、もしくは充電されるということ。リーダーたるものは年間を通して、組織の事業や訓練の全体図をよく把握し、適度なメリハリがつくようなリズムをもたなければならないということです。この程よいリズムと刺激というのが、人間の悪い本性が出ようとする兆しを何とか排除してくれるというところ。先ほど申しました中部航空警戒管制団という部隊では、仕事が回っていればという前提付きであります。早く出勤したいと思うくらい休めとっております。今回夏休みもそれくらい言いました。そろそろ休むのが飽きたので皆に会いたい、出勤したい、こう思えたときが本当の充電だということで、そう言ったら最後、出勤してこない人もおり心配した一面もありましたが、なんとかこの方向で行っております。

次に中期、短期の危険の見積もり、リスクの見積もりということ。色々な事業計画にも中期、短期という言葉がありますように、リスク要因というものを短期的、または中期的に見積もる、これから今後このような行事や訓練を控えているけれども、そこでどういった危険要素があるのか、気候の話もあれば人の規模の話、訓練の密度の話と、色々な話がありますが、そこから要因を先行的に洗い出しまして、それに対する備えをしていく、こうしたことの繰り返しが、慌てない安全対策になると思えます。

次に中期、短期の危険の見積もり、リスクの見積もりということ。色々な事業計画にも中期、短期という言葉がありますように、リスク要因というものを短期的、または中期的に見積もる、これから今後このような行事や訓練を控えているけれども、そこでどういった危険要素があるのか、気候の話もあれば人の規模の話、訓練の密度の話と、色々な話がありますが、そこから要因を先行的に洗い出しまして、それに対する備えをしていく、こうしたことの繰り返しが、慌てない安全対策になると思えます。

そして三つ目がリーダーの嗅覚の鍛錬です。やはり物事には危険な臭いというものがあります。即ち作業の難しさ、人員機材の配置状況、作業員の表情や疲労度、作業場に流れる空気、生き活きとやっているのか、ダラッとやっているのか、仲が悪いかな等、色々な違和感というものを、如何に早く嗅覚

で嗅ぎつけて排除するかということが大事だと思います。百聞は一見にしかずということで、現場、現物を実際確認して初めてわかることが沢山あります。よって部下を信頼するということと、部下まかせということは違うのだということを厳しく戒めて、決して放任主義にせず、自らの目で現場を確認し、要所要所の問題を早急に修正せよと指導しているところであります。

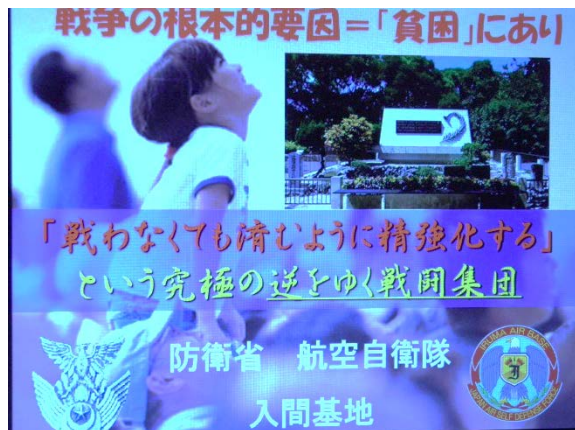
四つ目はぼやで騒ぐということで、これはヒヤリハッと案件とよく言いますが、色々な作業や訓練をしていてヒヤッとした、ハッとしたということは誰しもあります。それをなるべく皆で共通化し、同じことが起こらないように、あと一步というところで危ないという話を、適時に認識することによって、他山の石とすることができます。ここで大切なのは「二発目轟沈の法則」ということです。これはコンプライアンスの話なのですが、組織は船と同様に二発目の魚雷で沈むという名言であります。要は悪いことが発生した時に、隠ぺいや虚偽をすると、たちまち組織の自浄作用が薄れ、社会的信用を失い、もう立ち直れないほど組織はダメージを被るといった名言でございます。食品業界の例を始め、こういったことで埋没していった組織は枚挙に暇がありません。ここだけは戒めなければならぬと思っております。

徹底する方策と致しましては、「あほかの原則」と「たたはだかの着意」という2つがございます。あほかの原則とは、行動規範として指導しているところですが、【あ】とは【あわてない、あせらない】、【ほ】は【他のことを考えながら物事をしない】、【か】は【過信はしない】です。だいたいこれまでの様々な事故や私自身の失敗をした経験から集大成をしますと、この3つのうちのどれか一つか、もしくは全部、もしくは一つが発端で全てに関係するか、こういった心理状態で起こるというところで、これは極めて集約したものだと思っております。またこの名前から致しましても、わからないと「アホか」と怒られるということで、わかり易くて浸透しているところでございます。また部下指導においては「たたはだか」ということなのですが、人が人に対して指導する際には、単なる一方通行で言えば良いのではなく、一つ目【た】は【単純化】、

指導とはわかってもらえてなんぼの世界なので、如何に平たく言うかということです。二つ目の【た】は【タイムリー】、時期を逸しては意味がない、【は】は【反復】、【だ】は【ダメ押し】、【か】は【本人にも考えさせる】といったものになります。この中で【は】と【だ】は【反復】【ダメ押し】ということで、くどいじゃないかと思われるかもしれませんが、現実というのは「だから言ったじゃないか」ということの連続でありまして、本当にここは、最後にもう一度いうことが大切だと思っております。

戦闘機のパイロットは、今のような訓練をしていく前に入念なブリーフィングを行い、最後にルームアウトといいましてドアを開けていきます。そのドアを開ける寸前にもう一度リーダーたる男が、一緒に飛ぶパイロットに「今日は雷雲がくるかもしれない」等、一番その日の訓練で大切なポイントを必ず一声かけます。それを見て私はとてもすごいなと思いますが、そうしたダメ押しの注意喚起、これは非常に大切だと思っております。人には常に噴火しようとしておりますストレスのマグマがあります。守るべき基本動作とは、皆さんご存知の通りで、おもしろくない、できれば省略をしたい、もしくは知ったかぶりをしたいといった項目がほとんどです。スポーツの基礎運動、基礎練習をイメージされればすぐにわかると思っております。そこが人間の弱い所でございます。これを克服するために、今申しました術をやっていく必要があるというところでございます。その中で大切なこと、とりわけ自衛官に言えることなのですが、世の中を知る努力、これを我々は特にしなければならないと思っております。いかに時代の流れ、環境変化に応じた最新の対策が大切かというところに気を付けて、安全に徹底を図っているところであります。

最後になりますが、平和への思いを述べて終わりにしたいと思っております。戦争の根本的な要因を突き詰めていきますと、貧困にたどり着くと思われま



人は貧困から脱却したいがために相手の権利や権限を武力でもって奪いにでるといったことが歴史上示されておりまして、世界全体からこの貧困を少しでもなくしていくことが、世界平和に結びつく道だと思っております。我々航空自衛隊は、我が国の平和と安全を空において守ることになりますが、これは決して戦闘するためではなく、戦わなくても済むように抑止すること、これが最も大切な事で、戦闘しなくても済むように正教化を図るといふ、究極の逆をいく戦闘集団だと思っております。そうなりますと私も正直に言いまして、では我々はいったいつ真価を發揮するのだ、何のためにいるのかと、自己矛盾に陥った時期もあったのですが、今日のように何もない状態が続くことが、すなわち実力を發揮しているのだということでありまして、いかなる事情があろうとも、未来永劫戦争という行為を起ささせてはいけないということが、我々自衛官の信念であります。

今から 16 年前に私は那覇で 1 年半勤務を致しましたが、その際、吸いつけられるようにしてひめゆりの塔には何回も行き、お参りを致しました。そして二度と戦争はしませんと誓ったものであります。本年は戦後 70 年となりますが、そのテーマソングと致しまして「命のリレー」という歌が作られました。非常に大切なことを言っている歌でありますので、是非とも皆さん、一度聞いて頂きたいと思っております。最後のフレーズが「あの日をもう二度と繰り返さないように」と言っており、その通りだと思っております。

我々入間基地と致しましても、常に真の正教性を追求致しまして、究極の逆をいく戦闘集団として真価を發揮して参りたいと思っておりますので、当基地の運営に対しまして益々のご支援、ご理解を頂

きますよう、宜しくお願い申し上げます。



江原君 先週の夜間例会では会員皆様はもとより多くのご家族の方にもお集まりいただきお蔭様で楽しい時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

守屋パスト会長、本日のパスト会長の時間、宜しくお願い致します。また、航空自衛隊中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令空将捕山本裕一様本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願ひ致します。

小島君 航空自衛隊 空将捕山本裕一様、本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願ひ致します。

浜野君 航空自衛隊中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令 空将捕山本裕一様、本日の卓話楽しみにしておりました。よろしくお願ひ致します。守屋パスト会長、会長の時間よろしくお願ひ致します。

稲見君 入間基地司令、空将捕山本裕一様、今日はようこそお出でいただきました。お話し楽しみにしています。

石川君 先日はご利用ありがとうございました。また、ご来店お待ちしております。



※ 次の例会
9月8日(火) 12:30~13:30
会員卓話 小林奈保絵会員

第2副SAA 小澤君 坂本君